

「食神、正財、正官、印綬は悪い星」

「劫財、傷官、偏官、偏印は良い星」

「空亡なんて一切必要ない」

「建禄や帝旺は弱い」

こんなふうに書いてある本を、かつてあなたは読んだことがありますか？

四柱推命に興味があれば、絶対にこの本を手にするのではないと思います。そんなわけで、おそらくあなたは、これまでに四柱推命の鑑定を受けたことがある方、あるいは四柱推命を勉強されている方はたまたプロの四柱推命鑑定士のいずれかであると思っ間違いないでしょう。

今や、インターネットが普及して、「四柱推命」で検索すれば驚くほどたくさんの情報をいとも簡単に得ることが出来ます。しかし、それでもこの本のタイトルに惹かれて購入を決意されたということは、四柱推命に対するなんらかの違和感や疑問をお持ちなのでしょう。自分を納得させてくれるような説明を、とにかく探して探して探しまくっているではありませんか？ かつての私のように……。

さて、私が四柱推命と出会ったのは、かれこれ二十年近く前のことです。最初は独学で学び始めたので、大型書店へ出向いて、できるだけ分厚くて格式高そうな本を選んで購入し、せっせせつせと付箋やら見出しやらを付けて勉強しておりました。ところが、本によって書いていることが若干違ったり、行間を読み取るのに苦労したりして行き詰まってしまうました。そんなとき、近所のカルチャーセンターで四柱推命教室が開講されているのを知って、早速入会したわけです。

当時、カルチャーセンターの講師をされていた先生は、「泰山流」を名乗っていらつしやいました。四柱推命をあまりご存じない方でもなんとなく耳にしたことがあるかもしれませんが、「泰山流」とは、全国的に有名な阿部泰山先生の流れを汲んでいる流派なのです（実は、「泰山流」は商標登録されているので、元来自由に使うことはできません）。私は、そんなに有名な流派だから間違いはないと信じて疑いませんでした。

ところが、あるときから「あれ？」と思うようになりました。自分に生じている事象が、先生の鑑定とまったく合わなかったからです。「おかしいなあ……。四柱推命も、当たったり当たらなかつたりするのかなあ」と疑問、疑心がムクムクと湧いてきました。でも、結論として「私の勉強が足りないから、まだきちんと読み込めないのだ」と思い至ったのです（今思えば、そこに思い至ることで自分が救われたのでしよう）。

そんなある日、唐突にして劇的な出会いが訪れたのです。それが、現在の師匠である梅川泰輝先生と

の出会いでした。梅川泰輝先生の命式解説は、当時の私にとって青天の霹靂でした。何歳のときにどのようなことがあったのかなど、理路整然と細かい事象までもピタリと言いつけるのですから驚きです。ましてや、私がそれまで何年も何年も勉強してきた四柱推命とはまったく見方が違っていたのですから、その衝撃と言ったらさまざまいいものがありました。

「どうして同じ四柱推命なのに、これほどまでに違っているのか」

「これまで学んできた四柱推命は、一体なんだったのか」

私は、大きな衝撃とともに、真の四柱推命に出会えたということに絶大な歓喜を味わうこととなったのです。

今、みなさんが抱いている四柱推命への違和感、疑問の原因はただ一つ。ご存じの四柱推命が本当の四柱推命ではないからです。インターネットはもちろんのこと、大型書店に並んでいる本をはじめ全国で開講されている四柱推命教室で教えられている内容までもがほぼ間違っているのですから仕方ありません。正しく伝えている本や教室は、一割あるかどうかといったところです。だからこそ私は、これ以上多くの被害者を生み出さないように、正しい四柱推命を世間に広めることを第一の目的としてこの本の執筆を決意したのです。

巷に広まっている四柱推命の一体何がどのように間違っているのか、なぜこれほどまでに間違った四

柱推命が広まってしまったのか……そこを知りたいですよ。その疑問は、この本を読んでいただけでは驚くほどスカッと解消されるはず。どうぞみなさん、そのときを楽しみに、ワクワクしながら最後まで読み進めていただければ嬉しいです。